

ランチオンセミナー 1

慢性期の“治し・支える”を考える ～栄養管理・排尿ケア～

- ◆日 時：11月14日（木） 12:30～13:20
- ◆座 長：橋本 康子 医療法人社団和風会 理事長
- ◆演 者：小坂 鎮太郎 東京都立広尾病院 病院総合診療科 部長
西尾 俊治 南高井病院 院長

共催：株式会社大塚製薬工場

座長

橋本 康子（はしもと やすこ）

日本慢性期医療協会 会長

略歴

1981年	名古屋保健衛生大学（現 藤田医科大学）医学部 卒業
1981年	香川医科大学（現 香川大学医学部）第1内科教室 入局
1985年	米国インディアナ大学腫瘍学研究所 勤務
1988年	医療法人社団和風会 橋本病院 勤務
2000年	医療法人社団和風会 理事長 就任
2007年	医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院 開設
2020年	医療法人社団和風会 千里リハビリテーションクリニック東京 開設

日本慢性期医療協会 会長

慢性期リハビリテーション協会 会長

全国抑制廃止研究会 幹事

香川県抑制廃止研究会 会長

香川県女医会 会長

厚生労働省 社会保障審議会 介護保険部会 委員

厚生労働省 社会保障審議会 介護保険部会

介護分野の文書にかかる負担軽減に関する専門委員会 委員

日本地域医療学会 理事

病院薬剤師を活用した医師の働き方改革推進事業 協議会委員

日本地域包括ケア学会 理事

在宅医療政治連盟 顧問

日本リハビリテーション医学教育推進機構 理事
介護医療院における医療提供等の実態にかかる調査研究事業 検討委員
病院薬剤師の確保及び業務改革推進事業一式 有識者委員会 委員
リハビリテーション・個別機能訓練、栄養、口腔の実施及び一体的取組に関する調査研究事業委員
日本医師会 病院委員会 委員

演者

小坂 鎮太郎 (こさか しんたろう) 都立広尾病院 病院総合診療科 部長

略歴

神戸大学医学部を2009年に卒業。
佐久総合病院、東京ベイ・浦安市川医療センター救急集中治療科での研修を経て、
14年より練馬光が丘病院総合診療科/救急・集中治療科。

米・オレゴン健康科学大学家庭医療科にて研修後、板橋中央総合病院 総合診療科 科長、
練馬光が丘病院 総合診療科 科長を経て2023年より現職。
東京都に毎年100人の総合診療専門医、200人の総合診療マインドをもつかかりつけ医やNPを育てるべく東京都立病院機構と東京都医師会と東京総合診療推進プロジェクト(T-GAP)を2023年より開始した。

厚生労働省 科学研究「3技師のタスクシフトの有効性・安全性評価」班長、
東京都医師会 地域医療委員会 外部委員、
日本専門医機構 総合診療専門医 生涯学習委員、日本リハビリテーション栄養学会 ガイドライン作成委員長、
日本救急医学会/集中治療学会 終末期ガイドライン作成委員、
日本プライマリ・ケア連合学会 医療の質・患者安全委員、
医療の質・患者安全学会 診断エラー予防委員。

著書に『総合内科病棟マニュアル』(MEDSI、2017、2020)、
『ケア移行実践ガイド』(医学書院、2019年)、
『Hospitalist：病棟管理』(MEDSI、2021)、『Medicina：Quality indicatorの実装』(医学書院、2022)など。

西尾 俊治 (にしお しゅんじ) 南高井病院 院長

略歴

1979年 3月	愛媛大学医学部卒業
1983年 3月	愛媛大学医学部泌尿器科学教室 助手
1988年 9月 ～1989年8月	イギリス国マンチェスター大学留学 (尿路結石発生メカニズムの研究)
1989年 4月	愛媛大学医学部泌尿器科学教室 講師
1998年10月	愛媛大学医学部泌尿器科学教室 助教授
2002年 4月	愛媛大学医学部附属病院低侵襲手術センター 副センター長併任
2004年 2月	南松山病院 院長

2006年 4月	済生会今治病院 副院長
2011年 4月	南高井病院 院長
	現在にいたる。

- 1986年 医学博士取得 日本泌尿器科学会会員
2014年～ 愛媛県慢性期医療協会 会長
2016年～ 日本慢性期医療協会 総合診療医認定講座委員会 委員長
排尿自立支援研修会 責任者
2018年～ 日本慢性期医療協会 常任理事

LS1-1

慢性期の回復を支えるsPNのススメ

東京都立広尾病院 病院総合診療科

小坂 鎮太郎

地域包括ケアシステムの中の制度変化により、地域包括ケア病院に一定の急性期医療を担うこと、療養型病院に一定数の在宅復帰を目指すことが国の方針となった。これに合わせて、急性期病院でもリハビリ・歯科口腔・栄養の充実化を促す三位一体加算も開始となった。

回復期・生活期を担う医療機関で、在宅復帰率を上げる取り組みをするためには、2つの戦略が重要になると考えられる。1つ目は、急性期病院でなされるリハビリテーション栄養のバトンを確実に引き継いで、効率的な診療を包括ケア医療圏内で行うこと。2つ目は、療養型病院においてリハビリ・歯科口腔・栄養の充実化がなされるような診療を効果的に行うことです。

当院では、老年症候群クリニカルパスとして「たべられないパス」、「うごけないパス」を用い、早期より低栄養に対する補助静脈栄養（sPN）を併用したプロトコルによるリハビリテーション栄養の実施を行うことで、在宅復帰率の向上および在院日数の短縮化を計ってきました。この方法は、急性期のみならず、慢性期でも有効だと考えており、この機会に共有し、みなさまと議論したいと考えています。

LS1-2

慢性期医療における排尿ケアの意義

南高井病院

西尾 俊治

「排尿ケア」とは疾病や障害があっても自立した生活を送り、尊厳をもって人生を全うできるよう支援すること。「排尿自立」とはその人らしい排尿管理を行えること。自己の力を発揮すること。たとえトイレで排尿できなくても、排尿支援をしていくことが大事です。慢性期では病状の安定と並行して排尿支援をおこなえるビッグチャンスがあります。2016年度に「排尿自立指導料」、2020年度からは「排尿自立支援加算」が診療報酬と認められ、2018年度からは介護施設での「排せつ支援加算」が新設されました。しかし、まだ広く普及しているとは言えません。急性期から慢性期に入院の際に尿道カテーテルを留置されたままの患者を多く見かけます。その8割は尿道カテーテルが不要です。病状が安定したとしても不要な尿道カテーテル留置や24時間のオムツ使用があれば患者・利用者自身は決して良くなったとは考えないのではないでしょうか？ 退院支援も困難となります。

適切な排尿支援をするには膀胱機能を評価し、「科学的な排尿ケア」が必要です。キーワードは膀胱容量と残尿量です。患者・利用者の中には残尿量が多いため尿路感染や腎機能障害を来すことがあります。事前にチェックしておけば尿路感染症による高齢者救急を減らすことができるかもしれません。セミナーでは膀胱機能の簡単な評価方法と排尿支援方法について解説します。慢性期だからこそ「質の高い、適切な排尿ケア」ができると考えます。

ランチョンセミナー 2

よりよいリハビリを取り組むため 慢性期病院の栄養摂取方法を考える —栄養摂取の原点に戻る—

- ◆日 時：11月14日（木） 12:30～13:20
- ◆座 長：富家 隆樹 医療法人社団富家会 富家病院 院長
- ◆演 者：中尾 健太郎 イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 院長

共催：ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンス カンパニー

座長

富家 隆樹（ふけ たかき）

医療法人社団富家会 富家病院 理事長・院長

略歴

平成 3年(1991年)	帝京大学医学部 卒業
平成10年(1998年)	医療法人社団ふけ会 理事長就任
平成11年(1999年)	医療法人社団富家会富家病院院長就任
平成16年(2004年)	医療法人社団富家会 理事長就任
平成18年(2006年)	社会福祉法人樹会 理事長就任

役 職：日本慢性期医療協会 常任理事・事務局長
埼玉県慢性期医療協会 会長
地域包括ケア推進病棟協会 理事
全国デイ・ケア協会 理事

演者

中尾 健太郎（なかお けんたろう）

イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院 院長

LS2

よりよいリハビリを組み合わせるため 慢性期病院の栄養摂取方法を考える —栄養摂取の原点に戻る—

イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院

中尾 健太郎

理想のリハビリテーション（以後リハビリ）を行うためには栄養状態が良いことが条件の一つと思われる。2023年の当院入院患者763人の入院時アルブミン（Alb）中央値は回復期病棟で3.3g/dL、療養病棟で2.8g/dLであった。回復期病棟では1%の症例、療養病棟では約20%の症例が静脈栄養の状態である。静脈栄養患者のアルブミン値はさらに低値であり、リハビリを行うためには栄養状態の改善が必要である。

当院ではNST委員会を中心となり長期絶食症例に乳清ペプチドベースの消化態濃厚流動食（ペプタメンスタンダードバック）を導入し低アルブミンの改善に功を奏したことは以前報告した。令和6年の診療報酬改定で経腸栄養管理加算が得られることとなった。これは積極的なTPN離脱・経腸栄養移行と経口摂取を支援する制度でありリハビリの推進には強力な後押しである。乳清ペプチドベースの消化態濃厚流動食による低アルブミン血症の改善は起立性循環障害を解消し離床につながる。これによりレジスタンス運動を含むリハビリ、集団リハビリ参加を提供できるようになる。腸を使うこと、栄養摂取の原点に戻ることは身体的フレイルの改善を通してフレイルサイクルからの脱却につながりリハビリの推進につながる。

今回当院での長期絶食・TPNからの適切な離脱方法、経腸経管栄養への移行と絶食にならない経腸栄養管理とリハビリについて私見を交え供覧する。

ランチョンセミナー 3

これからどうする

- ◆日 時：11月15日（金） 12:20～13:10
- ◆座 長：池端 幸彦 池端病院 理事長
- ◆演 者：武久 洋三 日本慢性期医療協会 名誉会長

共催：日本慢性期医療協会 特別企画

座長

池端 幸彦（いけばた ゆきひこ）

池端病院 理事長

略歴

1980年	慶應義塾大学医学部卒業、同大学医学部外科学教室入局
1981年	浜松赤十字病院 外科
1982年	国立霞ヶ浦病院 外科
1983年	慶應義塾大学病院 一般消化器外科助手
1986年	池端病院 副院長
1989年	池端病院 院長（～現在）
1997年	医療法人池慶会 理事長（～現在）
2008年	社会福祉法人雛岳園（すうがくえん）[愛星保育園・たんぽぽ保育園] 理事長（～現在）

所 属：医療法人池慶会（ちけいかい）池端病院

現 職：理事長・院長

【現在の主な役職】

（全国）

日本慢性期医療協会 副会長

中央社会保険医療協議会（中医協）委員

厚労省 高齢者医薬品適正使用検討会 構成員

地域包括ケア推進病棟協会 副会長

日本リハビリテーション病院・施設協会 理事

（県内）

福井県医師会 会長
福井大学医学部 臨床教授
福井県医療審議会 会長
福井県慢性期医療協会 会長
福井県介護保険審査会 会長
全日本病院協会 福井県支部長

【主な資格】

日本外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医、日医認定スポーツ医
日医認定産業医、認知症サポート医、介護支援専門員

演者

武久 洋三 (たけひさ ようぞう)

日本慢性期医療協会 名誉会長

略歴

勤務先および役職：平成医療福祉グループ 会長
最終学歴：徳島大学大学院医学研究科（医学博士）

職歴・業績等：

1966年3月岐阜県立医科大学卒業。大阪大学医学部付属病院インターン修了。徳島大学大学院医学研究科卒、徳島大学第三内科を経て、現在、社会福祉法人平成記念会理事長、平成リハビリテーション専門学校校長等を務める。病院（一般・医療療養・回復期リハ・地域包括ケア）・介護老人保健施設・介護老人福祉施設・ケアハウスなどを経営。

専門分野：内科・リハビリテーション科・老年医学・臨床検査

団体役職等：

一般社団法人日本慢性期医療協会名誉会長、厚生労働省医療介護総合確保促進会議構成員、経済産業省次世代ヘルスケア産業協議会新事業創出ワーキンググループ委員、日本リハビリテーション医学会特任理事、独立行政法人国立長寿医療研究センター認知症医療介護推進会議委員、地域包括ケア推進病棟協会顧問、日本介護支援専門員協会相談役、徳島県慢性期医療協会顧問、徳島県老人保健施設協議会副会長、NPO法人徳島県介護支援専門員協会最高顧問

著書：

「よいケアマネジャーを選ぼう」「介護認定調査 正しい受け方・行い方」「介護保険・施設への緊急提言」「在宅療養のすすめ」「高齢者用基本治療マニュアル64」「よい慢性期病院を選ぼう」「あなたのリハビリは間違っていますか」(いずれも株式会社メディス)「こうすれば日本の医療費を半減できる」(中央公論新社)「どうするどうなる介護医療院」(日本医学出版)「令和時代の医療・介護を考える」(中央公論事業出版)

資格等：

日本内科学会認定内科医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、臨床研修指導医、THP 産業医、介護支援専門員、介護支援専門員指導員、ケアマネジメントリーダー、日本臨床検査医学会臨床検査管理医、日本糖尿病協会療養指導医、認知症サポート医

2024年8月現在

LS3

これからどうする

日本慢性期医療協会 名誉会長
武久 洋三

2024年度診療報酬改定はものすごいものであり、2006年の麦谷改定を凌駕するものであった。2024年改定を指揮した眞鍋前医療課長は、2006年改定の実務に携わりながら、将来の医療制度改革のイメージを涵養していたのに違いない。

2008年に私が会長に推挙された時に、寝たきり患者収容所の病院からの脱皮を提唱した。それから会員の皆様の同意も得て、急性期医療での低栄養、脱水、要介護度の悪化などの弊害についての改善の必要性を主張し出したのである。現在の橋本会長も強く訴え続けてこられたが、なかなか理解してもらえないと思っていたところ、この2024年の改定である。まさに日慢協の主張そのものを取り入れて、急性期の誤った常識を根こそぎ変えてくれた。何より慢性期医療の総合診療医能力を認めてくれて、高齢者救急の主として内科患者を急性期医療センターに送らず、私たちの病院で治療するのが望ましいのだと、「下り搬送」という制度で示してくれたのである。

会員の皆さん、これからどうしますか？

ずっと今までのように療養病床オンリーで慢性期のみを継続しますか？

確かに慢性期病床はこれからますます重要となります。慢性期は「寝たきり患者収容所」ではありません。高齢で重症となり、なかなか症状改善が難しい患者の専門病床なのです。ある意味、急性期医療で重症化した患者の終着駅となっている傾向もあります。しかし積極的に適正な治療をして、治して地域に帰ることが役割です。

急性期医療の後始末として誤った治療をしてきた急性期治療を元に戻して、さらに体力や免疫力を改善し、リハビリで自立を目指すとともに、より早い時期にできるだけ早く在宅に帰すという役割を果たすべきです。

私たちは、総合的に高齢者治療に習熟しているのです。これからどんどんと地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟に改棟して、病院のレベルを上げていくべきです。

近い将来、地域包括医療病棟への改棟もできるように、橋本会長にはぜひ頑張ってもらいたいです。

日慢協の会員病院はどんどんと日本の医療の中心へと昇り続けていきましょう。もちろん在宅復帰できた患者の在宅医療も私たちのお手のものですよ。

ランチオンセミナー 4

医療政策の最新動向と 令和6年度診療報酬改定の影響から読み解く これからの経営に必要な備えと選択肢

◆日 時：11月15日（金） 12:20～13:10

◆演 者：山口 聡 HCナレッジ合同会社 代表社員

共催：株式会社ワイズマン

演者

山口 聡（やまぐち さとし）

HCナレッジ合同会社 代表社員

略歴

1997年3月に福岡大学法学部経営法学科を卒業後、出版社の勤務を経て、2008年7月より医業経営コンサルティング会社へ。医業経営コンサルティング会社では医療政策情報の収集・分析業務の他、医療機関をはじめ、医療関連団体や医療周辺企業での医療政策や病院経営に関する講演・研修を行う。2021年10月、HCナレッジ合同会社を創業。

- ・医療・医薬品情報研究会運営委員
- ・独立行政法人中小企業基盤整備機構 中小企業アドバイザー（実務支援）
- ・「九州版エコシステム構築に向けた医療機器開発・事業化促進のための広域かつ包括的な企業群支援・育成の研究開発」事業（AMED受託事業）における「案件評価委員会委員」及び「専門分野支援専門家」
- ・一般社団法人妻有地域メディカル&ケアネットワーク 理事

LS4

医療政策の最新動向と 令和6年度診療報酬改定の影響から読み解く これからの経営に必要な備えと選択肢

HC ナレッジ合同会社 代表社員
山口 聡

現行の地域医療構想の目標達成に向けた病床機能の再編と医療機関の役割分担、そして令和7年度から施行される、かかりつけ医機能報告制度の施行を見据えた地域での慢性疾患の重症化予防に関する評価の整理など、令和6年度診療報酬改定は本格的な人口減少時代に突入する2030年以降に向けた環境整備を促すような内容となった。そして、令和9年度から始まることが予定されている新たな地域医療構想は、入院医療だけでなく、外来・在宅・介護も含めた、まさに地域が一つの総合病院・患者の居住する自宅や施設のベッドが病床と考えるような新たな発想で臨んでいくことになる。とりわけ、回復期・慢性期の機能を有する病院においては、地域の実状にあわせて、自院の役割認識と連携すべきポイントを正しく理解しておくことが必要だ。そして、医療機関の種別に関係なく医療DXを基盤とした情報ネットワーク構築と利活用が必須だといえる。

本セミナーでは、令和6年度診療報酬改定後の医療機関及び医療提供体制の変化を確認しながら、かかりつけ医機能報告制度や新たな地域医療構想など矢継ぎ早に行われる様々な医療政策を正しく理解し、今後の取るべき対応策と選択肢について解説したい。

ランチオンセミナー 5

電カル導入の敷居はここまで下がった — 中小病院が医療 DX に取り組める理由 —

- ◆日 時：11月15日（金） 12:20～13:10
- ◆座 長：林 太郎 株式会社ヘンリー 取締役・共同創業者
- ◆演 者：東 大里 医療法人正幸会 正幸会病院 理事長・院長
土谷 明男 葛西中央病院 理事長・院長

共催：株式会社ヘンリー

座長

林 太郎（はやし たろう）
株式会社ヘンリー 取締役／共同創業者

略歴

職歴

2011年	一橋大学卒業
2013年	ロンドン大学 SOAS 大学院卒業
2014年	楽天株式会社入社
2018年	当社を共同創業
2021年	クリニック向け電子カルテ「Henry」をリリース
2023年	病院向け電子カルテ「Henry」をリリース

1987年埼玉県川口市生まれ。

学生時代、アフリカで日本の中古重機をレンタルする新鋭スタートアップで現地リーダーとして活躍。一橋大学卒業後、楽天株式会社へ入社。楽天カード全体の SEO マーケティング業務や、楽天市場・楽天カードのビッグデータを分析しサイト改善を実施する。

2018年、当社創業。プロダクト開発及び営業組織の組成に携わり、現在に至る。

趣味

漫画、小説、音楽/DJ、サッカー、お笑い

資格

メディカルクラーク

演者

東 大里 (ひがし だいら)

医療法人正幸会 正幸会病院 理事長・院長

■ 略歴 ■

職歴・業績等

2005年	大阪警察病院初期臨床研修
2007年	大阪警察病院消化器内科後期研修医
2010年	正幸会病院院長就任
2016年	電子カルテ（オンプレミス型）導入、その後各種クラウドサービスを導入
2018年	オンライン診療開始
2019年	病院業務改善アプリケーション群「mawari」開発に着手
2021年	全国中小企業クラウド実践大賞奨励賞受賞（医療法人として初）
2023年	クラウドネイティブ型電子カルテを日本の病院として初めて導入・運用
2024年	・CBnews 社病院広報アワード SNS 部門優秀賞受賞 ・NewsPicks 社「HORIE ONE+」にて堀江貴文氏と対談 ・SSO を導入し、生体認証のできるスマホ（楽天モバイル）によるセキュリティ運用を開始 ・全日本病院学会・医療 DX 検討委員就任

1978年東京都生まれ、1歳で大阪に転居し、大阪の地で育つ。

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎卒業後、京都府立医科大学医学部に入学、1年後に再受験し大阪大学医学部に入学、2005年卒業・医師免許取得。

好きな趣味・スポーツ

バスケットボール、水泳、テニス、ゴルフ、スキー、ピアノ、冬山登山

好きな食べ物

スパゲティ、カレーライス、焼肉、お蕎麦

専門医資格

日本内科学会認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化管学会胃腸科専門医

土谷 明男 (つちや あきお)

葛西中央病院 理事長・院長

■ 略歴 ■

最終学歴

1998年3月 群馬大学医学部卒業

職歴

1998年群馬大学卒業。東京医科歯科大学整形外科入局。大学病院や大学からの派遣で各地の病院に勤務し

た後、2012年に義父の経営する葛西中央病院に赴任、理事長に就任。整形外科を専門に、訪問診療や終末期医療にも携わる。地域の住民に寄り添い「どこに相談していいかわからないような悩みにも、親身になって応じる病院」づくりに奔走している。

所属団体

東京都医師会 副会長